

小大連携教育における指導案の活用

——総合的な学習の時間を活用した MIL 教育の実践を事例に——

法政大学 寺崎 里水

1. 目的

大学が地域の小中高校と連携する教育活動が広まるなかで、そのノウハウをいかに現場教師の力量として共有していけるかという課題がある。本稿は、その方策の一つとして、大学教員が講師として行う授業の指導案を作成することのメリットについて主張することを目的とする。作成した指導案を事前に受け入れ先の学校に提示することで、授業目的の共有を図り、よりよい授業の展開に向け改善を図ることが可能になる。以下では、福島県の小学校で高学年の生徒を対象に実施した MIL 教育を事例に、その具体的な実践の様子について述べる。

今日、大学教員が小学校や中学校、高校の総合的な学習の時間を活用した探究学習に講師として加わる機会が増えている。大学と連携した活動のメリットとして、専門領域の知識を基にした協働活動が可能になるほか、新しい ICT 技術の活用方法やフィールドワークの進め方、近年議論されるようになった教育学上の課題とその授業への活かし方など、大学教員の持つ豊富な知識や技術の学校現場への導入があげられる。

連携の形式としては、スポット的に学校を訪問し、授業をしたり評価をしたりする機会が多い。大学教員が主たる科目担当者として定期的に学校を訪問して授業を実施する機会を持つようなやり方は、大学教員側の時間の確保が難しいという現実的な問題がある。また、大学教員の多くは教員免許を持たないため、多様な生育環境や学習状況にある生徒を相手に授業をするという点で、知識や力量が圧倒的に不足している。小中高校側も、教師としての大学教員の力量は問わず、数回授業に参加するゲスト講師として受け入れている。

その結果、大学教員は自らの行った授業について、直後の反応を得ることはできたとしても、その後どのように学習活動のなかに生かされたのかを知ることはできない。大抵の場合、自らの行った授業実践の改善のきっかけや具体的な方策は得られないままである。同様に、小中高校側の教師の力量形成への影響も把握することはできない。限られた一、二回の授業は、小中高校生が「大学とはどういう場所か」「大学ではどういうことを学ぶのか」を知るためには有意義かもしれないが、教師個人の専門性の発達に影響を及ぼしたり、そのことによって小中高校の授業の質を改善したり、新しい

教育方法を現場に導入したりするには十分ではない。

それどころか、小中高校側でも提供された授業を前後の授業でどのように位置付ければいいのかについて、大学側と、担任や学年団との意思疎通が不十分な場合が散見される。そして、優れた活動が停滞したり、なくなったりしてしまうこともある。

大学の協力を得て、ICT 機器を活用した先進的な取組みを行っていたある小学校では、中心的な役割を担っていた担任が人事異動で学校を離れたあと、その取組みを引き継ぐ者が現れなかった。担任と大学側とは活動の内容に関する議論が熱心になされ、校長と担任と大学側の三者間では合意が形成されていたものの、校長と担任を除く他のどの教師も、当該活動の意義や年間スケジュールについて把握していないことが、後に判明した。また別の高校では、やはり大学の協力を得て、高大連携に関する意欲的な取組みがなされていたが、大学や地域の協力を取り付け、活動の中心的な役割を担っていた校長が人事異動で地域を離れ、その後、活動の実務面を主に担っていた主幹教諭もまた異動で学校から去ってしまった。結果として、この活動の趣旨や狙いは後の教員集団にはうまく共有されず、次第に活動が形骸化してしまった。

先進的な取組みを行っていた教師、優れた実践を行っていた教師の異同に伴い、その取組みや実践がなくなってしまう状況について、学校教育は本質的にそういうものであると考えることもできるが、本稿では、大学教員のもつ知識や技術を学校現場と共有し、学校教育の改善につなげること、大学教員が行う教育実践の意義を学校教師と共有し、かれらの専門性の発展に寄与すること、そして生徒を相手に大学教員が行う教育実践の質を改善することという3つの目的意識をもち、その方策の1つとして指導案の作成を提案したい。実際の活動の記録を通し、そのことがどのようなメリットを持つのかを検討する。

2. 福島県における MIL 教育の支援と朝日小学校

本稿で扱う事例は、2024 年度に福島県南会津郡只見町立朝日小学校で5、6年生を対象に行った MIL 教育を兼ねた国際交流活動である。研究グループは2015 年から福島県のユネスコスクールを対象に、小

学校英語とビデオレター制作を用いた異文化理解・交流の実践支援を行っている。大地震や津波という自然災害の経験を共有するネパール、インドネシアを主な交流対象に活動してきたが、福島県の浜通り、中通り、会津という、3つの異なる気候・環境にある学校同士の交流も目的の一つである。これまで、中通りにある須賀川市立白方小学校、浜通りにあるいわき市四倉小学校で活動をしており、2024年度から会津の只見町立朝日小学校が加わった。

只見町立朝日小学校は福島県南会津郡只見町に1873年に開校された歴史のある小学校である。只見町内に小学校は3校あるが、いずれも地域全体の人口減少の影響を免れず、学校規模は縮小をたどっている。朝日小の2024年度の全校生徒数は45名、すべての学年の授業は複式学級で行われている。

朝日小学校は2014年にユネスコスクールに認定され、ESD教育として、東京大学の協力のもと、海洋教育に取り組んできた実績がある。「只見愛」(「自分に自信を持つ心」「家族や学校、地域に誇りを持つ心」「夢や目標に向かって学び続ける意欲」)を育むことを目的に、地域の人やものに直接触れることを重視する「只見学」という活動を行っている(只見町ポータルサイト)。

朝日小学校で研究グループはかつて、映像制作の授業実践を行ったが、そのときは児童の活動成果を町内で発表しただけにとどまっていた。活動に意欲的だった担任の転出に伴って映像制作を行う授業はなくなった。2024年度から改めて研究グループと協力し、MIL教育を兼ねた国際交流活動が開始された。交流対象はネパールである。国際交流を目的とするため、外国語活動(英語)が新たに取り入れられ、対象国ネパールについての基礎的な知識を得ることも授業内容に加わった。当初、活動の対象として、他の地域の小学校と同じく6年生を予定していたが、複式学級のため、5年生も同時に活動することとなった。5年生、6年生合わせて18名である。

3. 指導案作成の目的

2024年5月、研究協力の依頼に朝日小学校を訪れ、校長と面談して、7月、10月、2025年3月の3度にわたって大学教員が授業を提供するというスケジュールを確認した。活動時間は、7月に2時間、10月に2時間、3月に1時間の5時間である¹。大学側の授業者は研究

グループの4名、映像制作(坂本旬)、ネパール(長岡)、小学校英語(坂本ひ)、アンケート等(寺崎)である。研究グループは、これまでいくつかの小学校で同様の活動を行ってきたが、授業記録が生徒制作の映像と写真、授業後のアンケートしか残っておらず、授業実践としての積み重ねや改善に結びつかないという問題点があった。また、学校側の担当者(担任や校長)が転出すると実践が継承されないという課題は前述したとおりである。さらに、授業内容と授業者が多いわりに授業時間数が少ないことから、授業時間をあらかじめ計画的に割り振る必要があった。

これらを解消するために導入したのが指導案作成という方法である。研究チーム内で授業を行う者それぞれの研究目的や課題意識が異なることから、指導案作成を通してすり合わせを図り、当日の目的意識や活動内容を共有することが第一の目的であった。そして、7月の授業から10月の授業まで間が空くことから、担任にその間の生徒の意識づけや学習活動を補ってもらう必要がある。そのために、7月の授業でどこまでを扱い、10月までの間に具体的に何をしてもらわなければならないのか、担任に伝えなければならなかった。したがって、活動全体のスケジュール、各授業時間の目標、授業時間外の活動等を明確にすることが、指導案作成の第二の目的である。

第三の目的として、学校が掲げる教育目標のなかに大学教員が提供する授業を置き、学校固有の教育活動と研究チームが提供する教育実践とをつなぐことがある。大学教員が提供する授業を普段の文脈から浮いた特別なものとするのではなく、学校の教師が日常的に行っている実践のなかに位置付け、担任だけではなく様々な立場の教師が授業の目的や意義を理解し、方法を共有できることを目指した。この点は、これまでの活動では意識することがなかった点である。そして最後の目的として、授業を行って終わりではなく、次年度に継続して活動を行うための振り返りをする際の資料を得ることがあげられる。

以上に鑑み、指導案(資料1)に「3. 只見小学校で育てようとする資質・能力」「7. 児童の実態」を盛り込んだ。研究グループが提供する授業の目標と、朝日小学校の教育実践上の目標とがかけ離れないようにするために、主に授業者側に必要な情報である。この情報を踏まえた授業上の工夫として、ワークシートの導入があげられる(資料3)。他の学校の場合、児童数が多いので授業後のアンケートを通して全体像を把

1 5月の段階では7月、10月、3月の実施日だけと決定した。いずれも2時間ずつを予定していたが、活動経過と学校のスケジュールをすり合わせた結果、3月は1時間だけの活動になった。資料1、2の指導案で3月の活動時間が2時間予定されているのはこのためである。

握するという方法が有効だったが、朝日小学校の場合、児童数が少なく、量的な把握には向かない。そこで、個々人の活動の様子をできるだけ質的に把握することを目的に、7月と10月の授業で共通のワークシートを使うという方法を取り入れた。あわせて、授業者の大学教員が用意した資料が小学生に理解できる内容であるか、大学のような授業方法を前提にしていなかったか、量と質の検討を行った。

4. メディア・インフォメーション・リテラシー (MIL) の教育実践

ビデオレターの交換による異文化理解・交流の実践の意義について、坂本(2021)はMIL教育の観点から次のように整理する。タブレットやスマートフォンを活用して映像の撮影から編集までをこなすので、とすればICTの活用方法の獲得が活動の本旨であるかのように見えるが、この活動の意義は、相手に伝えたい情報を発信し、創造する過程と、それを用いてコミュニケーションをするという過程にある。学習者がメッセージを相手に伝えるために映像を編集するという経験は、あらゆるメディア・メッセージが構成されたものであるというMILのコア・コンセプトにおける第一の原理を学ぶために必要である²。

また、単なる映像制作とは異なり、ビデオレターの送り先はネパールの小学生、インドネシアの小学生など、明確に設定されている。したがって、目的やテーマを定めて撮影したものを編集するという過程を経る。送り先からの反応(返信)を期待した内容を盛り込むこともあり、コミュニケーションが強く意識されている。ビデオレターはICT機器を活用して作るが、それ以外にも絵や手紙の交換を伴うこともあり、それら多様なメディア・フォーマットを使い分け、それらの性格を理解することも活動に含まれている。

さらに、ソーシャル・メディアの発展を見れば、映像はただ受動的に見るだけのものではなく、自ら発信する表現方法の1つでもある。だとすれば映像を創造し、読解する力は、それまでの読み書き能力と同じように、リテラシーとみなされるべきである。ビデオレターを通して外国の子どもたちと交流をする教育活動は、映像という新しいリテラシーを用いて互いを知り、理解し合う方法を学ぶ実践である。

以上の内容を指導案(資料1)の「2. 単元目標」「5. 評価方法」に詳細に記入した。研究グループの行う活動について、校長には意義を説明して協力依頼をしているが、担任や他の教師と直接話をしたわけではない。また、授業前に担任とは一度、打合せをしているが、授業運営上の実務的な相談に限られており、調査グループの活動の目的やMIL教育の意義について説明できるほどの時間はなかった。2024年度限りの活動ではなく、数年継続して活動を行う計画であるため、校長や担任以外の教師に活動の趣旨や意義を共有することは重要である。実際に10月の授業を終えて、担任と今後のスケジュールについて打ち合わせをしたときに、「生徒が撮った映像を適当に教員が編集したほうが時間の節約ができていいのでは?」という質問があった。この授業はタブレットの活用が目的なのではなく、MIL教育なので、伝えたいメッセージに合わせて、自分たちで編集することに意味があるのだという説明をした。授業をしているところに一緒に参加していても、それだけで活動の趣旨を理解することは難しいということがわかる。

5. 課題

本稿の冒頭で、小中高校と大学が連携して教育実践を行ったとき、大学教員のもつ知識や技術を学校現場と共有し、学校教育の改善につなげること、大学教員が行う教育実践の意義を学校教師と共有し、かれらの専門性の発展に寄与すること、そして生徒を相手に大学教員が行う教育実践の質を改善することという3つの目的意識があると述べた。その方策の1つとして指導案作成の効果について述べるのが本稿の目的であった。ビデオレターの交換は3月に実施されるので、まだこの授業は計画の半ばである。最終的な授業の成果についてはまだ評価できないが、指導案を作成することの効果をいくつか指摘することができる。

まず、指導案のなかに授業案を作成し、かなり細かく計画をしたことで、研究グループが伝えたいメッセージを精選することができた。これまではそれぞれが必要だと思っ情報を詰め込み、結果として授業時間が足りなくなることがあったが、予定された時間のなかで伝えられる量の情報に絞りこむことができた。また、どの学校でも同じ素材を使った授業を繰り返すこ

2 そもそもリテラシーとは何か、メディアとは何か、メディア・リテラシーとメディア・インフォメーション・リテラシー(MIL)とは何が違うのかといった詳細な説明は坂本(2022)が詳しい。学校教育のなかでMILに関わる教育実践を行う目的の1つは、本文にあるように映像という新しいリテラシーを獲得することにあるが、もう1つの目的はデジタルな情報とどのように関わるのかというデジタル・リテラシー、アルゴリズム・リテラシーの獲得があげられる。いずれもデジタル・ツールやメディアを活用して市民社会を形成するデジタル・シティズンシップを育むために必要とみなされている。

とが多かったが、学校の活動や生徒の様子を反映し、学校の授業の文脈に寄り添った内容を追加することができた。

一方で、大学の講義型の授業のように、一方的に授業者が話をするだけになりがちであることも確認できた。授業時間内の構成や発問が練られておらず、子供の発言や疑問をうまく拾うことができないという、授業者の単純な力量不足が主な原因である。また、子供の学習状況について把握できていないということも原因の一つとしてあげられる。ワークシートに書き込めるように空欄や空白部分を用意していたが、大学生と異なり、授業者が話をしている最中にワークシートの空欄を自発的に埋めていくことができる子供は少ない。そのため、ワークシートがほぼ白紙のままになっている子供が多かった。小学生を相手にした授業展開のあり方、成果を把握できるようなワークシートの作り方と作業のさせ方について、検討と改善が必要である。

MIL教育という新しい教育の課題について、指導案を通して多少の理解は得られた。3月のまとめの回を終えてから、朝日小学校側の意見を聞く予定だが、MIL教育の方策としてのビデオレター制作ということも理解を得られたように感じる。とくに、映像を制作する手法について授業案に詳細を書き、ワークシートでデザインシート（資料3の22ページ）を配布し、

担任以外の教師にも共有ができたことは、同様の取り組みを試みたい教師にとって有益であろう。

生徒を相手に大学教員が行う教育実践の質を改善すること、大学教員のもつ知識や技術を学校現場と共有し、学校教育の改善につなげることという2つの目的について、暫定的ではあるが以上のように効果があった。3つ目の大学教員が行う教育実践の意義を学校教師と共有し、かれらの専門性の発展に寄与するという点については、3月の最終回を終えてから別途、まとめる。

[文献リスト]

文部科学省（2017a）『小学校学習指導要領（平成29年告示）』

文部科学省（2017b）『【総合的な学習の時間編】小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』

坂本旬（2021）「第6章 ビデオレターの理論と実践」寺崎里水・坂本旬編著『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』法政大学出版社、pp.77-91.

坂本旬（2022）『メディアリテラシーを学ぶーポスト真実世界のディストピアを超えて』大月書店

只見町教育ポータルサイト「只見町立朝日小学校」
http://kir523528.kir.jp/?page_id=40（2025年1月17日最終閲覧）

資料1 第一回指導案

総合的な学習の時間の学習指導案

2024年7月16日（月）5、6校時

授業者：坂本旬（法政大学）、坂本ひとみ（東洋学園大学）
長岡智寿子（田園調布学園大学）、寺崎里水（法政大学）

- 1. 単元名** ビデオレタープロジェクト
～ネパールの小学校とのビデオレター交換を通して只見愛を深めよう～
- 2. 単元の目標** 只見を紹介する映像を制作する活動を通して、①様々な方法を用いて自分の思いを人に伝える力を養うと同時に、②地域の気候や地形、暮らし方の結びつきや特徴を知り、③学校の活動を支えてくれる地域の人々の思いや願いに気付くことを目標とする。
- 3. 朝日小学校で育てようとする資質・能力**
教育目標) ふるさと只見を愛し、多様な人々と共に、持続可能な未来を創る、たくましい児童の育成
目指す児童像) 進んで学習し、高め合う子ども（学力）
思いやりをもち、よさを認め合う子ども（心力）
心身ともに健康で、たくましい子ども（健康・体力）
教育活動) 郷土愛（只見愛）、ESDと海洋教育の充実、ユネスコスクール&コミュニティスクール

4. 評価基準

評価の観点		
知識および技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
只見の気候や地形を知り、地域の暮らし方の特徴との結びつきを理解している。 動画をつくるために必要な手続きを理解している。 必要に応じて英語でコミュニケーションを取ることができる。	ふるさと只見を愛する気持ちを、ビデオレターを用いて人に伝える方法を考える。 人に情報を伝えるために必要な動画の構成を考える。	様々な方法を用いて地域のことを調べようとしている。 友だちと話し合い、協力をしながら活動に挑戦している。 英語を使ってコミュニケーションを取ろうとしている。

5. 評価方法

(1) 児童や授業者が「学びを評価」するための評価方法の手だて

ア 学習活動を見通す

総合的な学習の時間では、児童自身が自らの学習活動の状況に気付き、学習活動を改善していくことが求められる。自らの状況を的確に評価できれば、修正・改善すべき点が明らかになり、学習活動はさらに充実することが予想される。そのため、児童自身が学習活動を振り返り、その後の学習活動を見通すことができる評価が大切であると考え。各時間の学習過程について見通しをもつことで、活動意欲の向上、持続が期待でき、主体的に学習活動を進めることができると考えられる。

イ ワークシートの活用

学習活動を主体的に進めるためには、自分の活動を振り返り、次の活動を見通すが必要になる。そこで、グループでの実践活動のワークシートを作成し、目的・内容・方法・相手などを明確にすることで、学習活動を具体的に見通すことができるようにしたい。毎時間、ワークシートに基づいて学習活動を振り返り、成果や課題、次の活動について、自分の考えを整理できるようにする。ワークシートを使うことにより、児童は学習活動に見通しをもち、計画の修正・改善ができると考える。また、児童と教師による評価を相互活用することによって、学習理解の深まりや自己評価力の高まりも期待できる。

(2) 学びを深める学習活動の手だて

ウ 国際交流の意義

世界の現状・現実について知り、日常生活からは想像することが困難な、世界の問題へ目を向けることができ、児童の世界観を広げ、多様性を認める助けになることを期待する。そのための活動として、ネパールとのビデオレター交換を行う。

エ ビデオレター制作活動

ビデオレターはメッセージの送り先を明確に意識して作られる映像作品である。ビデオレターは、目的やテーマを決め、ストーリーボード（絵コンテ）をつくり、撮影したビデオクリップを編集するという過程を経て制作される。学校紹介ビデオや学習発表ビデオと似ているが、送り先（視聴者）が明確であることが大きな違いである。その教育的な意義は次のようである。

① 映像制作をする過程への着目

作成された映像の完成度、伝えられるメッセージ内容ではなく、その制作のプロセスに教育的価値がある。映像を制作するための勉強や取材、編集等を通して何を心得、何が変わったのかに着目することが必要である。

② ビデオレター交換の意義

ビデオレター交換による異文化交流実践は、メッセージの創造と読解という側面がある。何を伝えるか、いかにうまく伝えるかに関する力だけでなく、相手からのメッセージを批判的に分析し、深く考えながらメッセージを理解するスキルの育成もこの活動の目的である。これら両方の側面のスキルが磨かれてこそ、コミュニケーションが上手に達成できると考える。

③ 送り先を意識する

ビデオレターは漠然と制作するのではなく、なんのために、誰に向けて、どのようなメッセージを伝えたい

のか、どのような表現方法を使えば伝えることができるのかについて時間をかけて考える必要がある。単なる学校紹介や学習のまとめにしないためのディスカッションが必要である。

④ 正解を見つけるのではなく、問いを見つける活動

日本からビデオレターを送り、先方から返事をもらう1往復のやりとりでは、たとえそれにネパール紹介の授業1回を加えたとしても、ネパールの小学校や子供たちの抱えている課題を理解することは不可能である。目指すべきゴールは、この往復をきっかけに、たくさんの疑問を持つことであり、「わかりたい」「知りたい」という思いを育てることである。

6. 他教科との関連

外国語科
社会科
理科

7. 児童の実態

第6学年7名、第5学年11名

8. 単元の指導計画と評価計画（全6時間）

時	ねらい	学習活動	資料など
1 2 7 月	活動の目的と今後の流れを理解する。 何が活動に必要な知識・技能であるかを考え、学ぶ（iPadの使い方、地域の自然や生活に関する知識、簡単な英会話力）。	・ネパールの位置、共通の経験（大地震）について知る。 ・クイズ形式で日本にいるネパール人の数、渡航目的、実際にしている仕事などを予想し、資料から読み取る。 ・これまで学んできた只見の自然や生活に関する知識を思い出し、話し合う。 ・iPadの使い方を学ぶ。	・全体の流れをイメージするためのワークシート（振り返りにも使えるようなもの） ・ネパールに関する資料（法務省統計等） ・過去の活動の動画
3 4 10 月	自分たちが伝えたいメッセージを決め、映像としてまとめる。	・それぞれが只見について学んできたこと、新しく調べたことを確認する。 ・ネパールという国と人びとの暮らしについて理解する。 ・グループで、只見の自然や文化、自分たちの学校生活等について伝えたいことを決める。その際、「なぜ伝えたいのか」「どうやったらうまく伝えられるか」についても考える。 ・iPadでビデオレターを制作する。 ・英語で思いを伝えるための工夫をする。	・全体の流れをイメージするためのワークシート（振り返りにも使えるようなもの） ・英語でコミュニケーションをとるための資料 ・その他、子供たちの計画に応じて資料を用意
5 6 3 月	ネパールの子供の様子を見て、自分たちの伝えなかったことが伝わったかどうか、確認をする。自分たちの実践がSDGsにつながることを理解する。	・ネパールの映像を見て、気づいたこと、不思議に思ったこと、知りたくなったことなどを確認する。 ・実践を通じて感じたことや、新しく生まれた考えなどを話し合う。 ・自分たちの活動とSDGsとの関連を考える。 ・クラス全体で、これからどのように世界の人と関わっていきたいかを話し合う。	・SDGsのロゴ ・ネパールの子供たちが制作した映像、ネパールの学校の様子の映像

9. 本時 (1-2/6) 時間

(1) 本時の目標

- ①活動の目的と今後の流れを理解する。
- ②どんな知識や技能が活動に必要なかを考え、学ぶ。
- ③ネパールという国やそこでの人びとの生活に興味を持つ。
- ④これからの活動に対してワクワクした気持ちを持つ。

(2) 本時の評価基準

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
只見の気候や地形、地域の暮らし方の特徴を理解している。(発言) 動画をつくるために必要な手続きを理解している。(完成した映像、ワークシート)	ふるさと只見を愛する気持ちを、映像を用いて人に伝える方法を考える。(ワークシート)	様々な方法を用いて地域のことを調べようとしている。(発言、ワークシート) ネパールという国やそこでの人びとの生活に興味を持って調べようとしている。(発言、ワークシート) 友だちと話し合い、協力をしながら活動に挑戦している。(授業中の活動の様子、ワークシート)

(3) 本時の展開

過程・時間	教師の働きかけ・発問	児童の学習活動	指導上の留意点(支援)
導入 10分	1.4人の大学教員の自己紹介。 2.「みなさんはネパールという国を知っていますか。」 ワークシートを配布する 「日本に住んでいる外国人、もっとも多いのはどこの国の人でしょうか。」 「ネパールはどうでしょうか。」 「ネパールの人たちは、日本でどんな仕事をしていると思いますか。」 「只見町にネパール人はいますか。」 3.ワークシートに基づき、これからの流れを説明する。	配布されたワークシートに名前を書き込む。 在留外国人の国、理由について予想させた上で、配布資料を読み取る。 只見町には8人いることを確認する。	児童の意見→実際に資料で確認という流れを大切にす。 自分たちでネパールについて調べる姿勢を持たせたいので、教えすぎないことが大事。
展開① 15分	4.坂本先生によるプロジェクトの説明。ネパールとの距離感や映像を通して、活動への意欲をかき立てる。	映像を見る。	活動の目的について正確に伝える。
展開② 15分	5.映像を見て思ったことを共有する。	動画をみて思ったことについて、まず個人で考えをピンク(思ったこと)とブルー(疑問に思ったこと)の付箋に書き、そのあと、黒板に貼っていく。	活動に対する思いと、ネパールに対する思いを丁寧に見る。

<p>まとめ ① 10分</p>	<p>6.「これから、みなさんには只見の気候や自然、生活、文化、学校生活などについて、ネパールの子供たちに伝えるビデオレターをiPadで作ってもらいます。次の時間はそのために必要な知識を学びます。」</p> <p>7.「これからの活動について、今、どんな気持ちを持っているか、ワークシートに書こう。」</p>	<p>ワークシートに、活動に対する第一印象を素直に書き込む。</p>	
<p>休憩 10分</p>			<p>作業の進行具合をチェックする。</p>
<p>導入 5分</p>	<p>8.「これからの活動について、みなさんにやってもらうことは2つあります。1つは、ビデオレターの内容について考えてもらうことです。只見のどんなことについて、ネパールの子供たちに伝えたいかを考えてください。もう1つは、実際に動画を作ることです。」</p> <p>9.「まず、これまでに只見について、どんなことを学んだのか、思い出してください。どんなことを学んできましたか。」</p> <p>「これから、どんなことを伝えたいかについて考えてもらいますが、大切なポイントを1つ言います。みなさんがネパールについて知っている（知らない）のと同じくらい、ネパールの人は日本について知りません。そのことを意識して、どんなことを伝えたいのか、考えてください。」</p> <p>「この点については、これからみなさんで、夏休みやそのあとの学校の勉強や活動を通してじっくり考えておいてください。今日は扱いません。」</p>	<p>活動のために2つの作業があることを理解する。</p> <p>これまで、只見について学んできた内容を思い出す。実際に答えてもらう。</p> <p>日本のなかで只見町を紹介すること、国際的に只見町を紹介することの視点の違いについて気付くことができる。</p>	<p>総合的な学習の時間に限らず、理科や社会、教科外での活動など、いろんなことが出てくるとよい。</p> <p>時間がないので、実際に自分たちが何を知っていて、どんなことを伝えたいのかについて考えるのは、通常の学校教育活動のなかでやってもらう。</p>
<p>展開③ 20分</p>	<p>10.坂本先生によるiPadの使い方「今日はiPadを使って自己紹介の動画を作ります。これまでも動画を撮ったことがあると思います。今日は、目的のはっきりした動画を作る方法について説明します。」</p> <p>「目的のある動画を作るために重要なことは～～。では、実際にやってみましょう」</p> <p>iPadの基礎的な使用方法を確認する。動画の編集方法について教える。</p>	<p>自己紹介という目的にあわせて動画を作る。</p>	<p>※各人ができるようになるのか、グループ単位の活動なのかの確認が必要。</p> <p>iPadが正しく使えているかどうかを確認する。</p>

<p>展開③ 10分</p>	<p>11. 「いったん席に戻ってください。」 「もう1つ大事なことを言います。ネパールの子供たちはどんな言葉を使っているか知っていますか。みなさんは今、日本語を使ってビデオレターを作ろうとしていましたよね。実際にはネパールは固有の言語があります。」 「国際的にもっとも多くの人が使っている言語が英語です。ネパールでも人々は英語を習っています。そこで、この活動を通して、英語を使ってみましょう。」 ひとみ先生による英語の話 実際に使えそうな英語を学ぶ。</p>	<p>言語の違いに気付く。 どうやってメッセージを伝えたいのか、考える。 コミュニケーションをとるための英語の役割を知る。 実際に、自分たちが使える英語について考える。 勉強ではなくて、コミュニケーションツールとしての英語を楽しむ。</p>	<p>英語の授業感が強くなると苦手意識が出てくる児童がいるので、コミュニケーションをとるためだということを強調する。</p>
<p>まとめ ② 10分</p>	<p>12. 「今日の活動の振り返りをします。」 今後のスケジュールについての確認をする。 只見町について、どんなことを紹介したいのか考えながら次の活動までを過ごすように呼び掛ける。 ネパールについても情報に注目するように促す。 13. 「ワークシートに記入をしてください。書けたら先生に提出してください。」</p>	<p>10月の授業までの過ごし方を知る。 「なんのためにそのことを伝えたいのか」「どうやったら伝わるのか」の2点について考える。</p>	<p>※どちらかといえば教員集団との次回までの課題の共有の意味が強い。 単なる学校紹介、地域紹介にならないように、なんのために伝えるのか、どうやって伝えるのかについてよく考えさせる。</p>

ワークシート（別紙）

資料2 第二回指導案（抜粋）

7. 単元の指導計画と評価計画（全6時間）

時	ねらい	学習活動	資料など
<p>1 2 7 月</p>	<p>活動の目的と今後の流れを理解する。 何が活動に必要な知識・技能であるかを考え、学ぶ（iPadの使い方、地域の自然や生活に関する知識、簡単な英会話力）。 ⇒英会話をする時間がなかった。次の活動のために準備してほしい事項を学校に伝えるにとどまった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ネパールの位置、共通の経験（大地震）について知る。 ・クイズ形式で日本にいるネパール人の数、渡航目的、実際にしている仕事などを予想し、資料から読み取る。 ・これまで学んできた只見の自然や生活に関する知識を思い出し、話し合う。 ・iPadの使い方を学ぶ。 <p>⇒時間がなくて、ネパールのことについてはほとんど触れることができなかった。また、只見の自然や生活に関しても、これまでの学習について確認することができなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の流れをイメージするためのワークシート（振り返りにも使えるようなもの） ・ネパールに関する資料（法務省統計等） ・過去の活動の動画

		⇒ iPad の使い方については、最低限の情報を伝えることができた。また、生徒が実際に活動することができた。	
3 4 10 月	自分たちが伝えたいメッセージを決め、映像としてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動内容を思い出して、これまで学んできたことを確認する。 ・ネパールという国と人びとの暮らしについて、学校という側面から理解する。 ・グループで、只見の自然や文化、自分たちの学校生活等について伝えたいことを決める。その際、「なぜ伝えたいのか」「どうやったらうまく伝えられるか」についても考える。 ・英語で思いを伝えるための工夫をする。 ・iPad を使ってビデオレターを制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の流れをイメージするためのワークシート（振り返りにも使えるようなもの） ・英語でコミュニケーションをとるための資料 ・その他、子供たちの計画に応じて資料を用意。
5 6 3 月	ネパールの子供の様子を見て、自分たちの伝えなかったことが伝わったかどうか、確認をする。自分たちの実践がSDGsにつながることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ネパールの映像を見て、気づいたこと、不思議に思ったこと、知りたくなったことなどを確認する。 ・実践を通じて感じたことや、新しく生まれた考えなどを話し合う。 ・自分たちの活動とSDGsとの関連を考える。 ・クラス全体で、これからどのように世界の人と関わっていきたいかを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs のロゴ ・ネパールの子供たちが制作した映像、ネパールの学校の様子の映像

8. 本時 (3-4/6) 時間

(1) 本時の目標

- ①只見の自然や文化、暮らしについて、その特徴を理解して説明することができる。
- ②iPad を使った動画制作の手続きと方法を理解し、適切に運用できる。
- ③英語を用いたコミュニケーションに意欲を示す。英語で自己紹介ができる。

(2) 本時の評価基準

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
動画をつくるために必要な手続きを理解している。(撮影した映像、ワークシート) 英語で自己紹介ができる。	ふるさと只見や朝日小学校を愛する気持ちを、映像を用いて人に伝える方法を考える。(ワークシート) 英語を使って表現することを恐れない。	様々な方法を用いて地域のことを調べようとしている。(発言、ワークシート) ネパールという国やそこでの人びとの生活に興味を持って調べようとしている。(発言、ワークシート) 友だちと話し合い、協力をしながら活動に挑戦している。(授業中の活動の様子、ワークシート)

(3) 本時の展開

過程・時間	教師の働きかけ・発問	児童の学習活動	指導上の留意点（支援）
<p>導入 7分 (寺崎)</p>	<p>はじめの挨拶</p> <p>1. 前回の資料、新しい資料（ワークシート）を配布する。</p> <p>2. 「7月にやったことを覚えていますか。」 ネパールの子供たちとビデオレターを交換すること、7月に動画を撮る練習をしたことを思い出させる。</p> <p>3. 7月から今回までの間に、ネパールに関する知識、興味がどのくらい増えたのか、減ったのか、確認する。</p> <p>「9月にあったお祭りでは、ネパールの人がお店を出していましたか？」</p> <p>「7月にみなさんに書いてもらったアンケートを見ていたら、こんな質問がありました。自分がどんな質問をしたのか、前回のワークシートを見て思い出してください。」</p> <p>「こんな質問がありました」 配布資料でグルーピングを説明する。</p> <p>「たくさん質問がありました。そのなかから、今日は、ネパールの学校について、ネパールの教育に詳しい長岡先生に、説明をしてもらいます。」</p>	<p>配布されたワークシートに名前を書き込む。</p> <p>配布されたワークシートを見る。前回の活動を思い出す。</p> <p>只見町にネパール人がいることを知っているか、接点があるか、接点を持つとしたか、確認する。</p> <p>前回、自分がどんな質問を書いていたのか、ワークシートで振り返る。</p>	<p>児童の意見→実際に資料で確認という流れを大切にします。</p> <p>自分たちでネパールについて調べる姿勢を持たせたいので、教えすぎないことが大事。</p> <p>ここでの質問のまとまりをベースに、ビデオレター制作をするように働きかけるので、確実に、自分の関心について思い出させること。</p> <p>配布資料にも質問のグルーピングを載せる。</p>
<p>展開① 10分 (長岡)</p>	<p>4. 長岡先生によるネパールの学校教育についての説明。 パワポ利用</p> <p>講義ではなくて、ある程度インタラクティブな活動になるといい。</p>	<p>説明を聞いたりして、気づいたことをワークシートにメモをとる。</p>	
<p>グループ分け 13分 (寺崎)</p>	<p>児童からの質問に対して、長岡先生の説明を聞いて、どういった答えになったか、確認をする。</p> <p>5. グループ分けをする 「これから、みなさんの質問をもとにして、グループに分かれて、ビデオレターを制作してもらいます。」</p>	<p>挙手により、わかったことを回答してもらおう。</p> <p>興味・関心をもとにグループにわかれる。</p>	<p>7月とは違うことに関心を持ってもいい。</p>

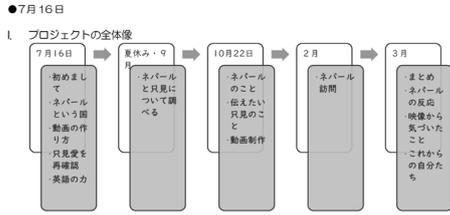
	<p>それぞれのグループのテーマはこれです。どのグループのテーマがいいか、考えてください。」</p> <p>「希望をとります。どのグループがいいですか。」</p> <p>「では、グループごとに席を移動しましょう。」</p> <p>「ここからはビデオレターの作り方について、坂本旬先生が説明してくれます。」</p>	<p>席を移動する。グループで iPad ひとつを使うので持ってくる。</p>	<p>1つのグループに偏ったときには、そのグループを2つにわける。</p> <p>メンバーの確認、iPadの準備状況を確認。</p>
<p>展開② 15分 (坂本旬)</p>	<p>6. ビデオレターの作り方について説明をする。</p> <p>振り返り 「前回、自己紹介の動画を作りました。そのとき、大切なことを2つ教えたが、覚えていますか。」</p> <p>今日の目標 ①グループで伝えたいことを決める。 ②そのために何を撮影したらいいか、内容の計画を立てる。 ③撮影する。</p> <p>「これから、どんなことを伝えたいかについて考えてもらいますが、大切なポイントを1つ言います。みなさんがネパールについて知っている（知らない）のと同じくらい、ネパールの人は日本について知りません。そのことを意識して、どんなことを、どういうふうに伝えたらいいのか、考えてください。」</p> <p>「私たちの学校／町ではこうですが、ネパールのあなたたちの学校／町ではどうですか」という応答を想定できるとよい。説明だけだと飽きるので、作業と説明を交互に。</p> <p>デザインシートの使い方を説明する。</p>	<p>前回の撮影のポイントを思い出す。 ① iPad を横向きにして撮影する。 ② バストショット</p> <p>伝えたいことがちゃんと伝わるように映像をつくるにはどうしたらいいのか、考える。</p> <p>ふるさと只見や、朝日小学校のことを好きだという気持ちを大切ににする。</p> <p>デザインシートを使って、計画を立てる。</p>	<p>情報の受け手の気持ちになって考える。 相手のことに関心を持ちながら、自分たちのことを伝える。一方的に伝えるのはダメ。</p> <p>配布資料中のデザインシートを使う。 記入するのは代表者1人でいいけど、できればみんなで共有するために、それぞれのシートに記入する。</p>
<p>休憩 10分</p>			<p>作業の進行具合をチェックする。</p>

<p>展開③ 15分 (坂本 ひ)</p>	<p>デザインシートの記入具合を確認する。 デザインシートの「はじまりのあいさつ」に注目させる。</p> <p>7. 「はじまりの挨拶は、ぜひ英語を使ってください。この時間は、はじまりのあいさつで使う英語について、坂本ひとみ先生から教わります。英語で自己紹介ができるように、練習をしましょう。」 パワポ利用</p>	<p>自分の使うあいさつの英語について、それぞれ書き取る。 くり返し練習する。</p>	
<p>展開④ 20分 (坂本 旬)</p>	<p>8. 「では、英語ではじまりのあいさつを入れて、ビデオレターの続きを作しましょう。」</p>		<p>実際に撮影に入ってよい。 教室を出ていく場合は、戻り時間を伝える。誰かついていく。</p>
<p>まとめ 10分 (寺崎)</p>	<p>「それでは、活動をおしまいにしてください。」「iPadを片付けます。」</p> <p>9. 今日の活動の振り返り ①ビデオレターの「デザイン」について、デザインシートを使って考えました。 ②「はじまりのあいさつ」を英語でするために練習をしました。 ③そして、実際に撮影を開始しました。</p> <p>2月中旬にネパールに持っていくので、1月、新学期が始まったときに、ほぼ完成している状態にする。そのために、どうしたらいいのか、グループで考えるように指示を出す。</p> <p>今日の感想をアンケートに書いてください。</p> <p>終わりの挨拶。</p>	<p>何をいつ撮影するのか、グループごとに確認をする。</p> <p>アンケートに回答する。</p>	<p>※このあとの過ごし方、実際にネパールに持っていくまでのスケジュールの確認をする。 どちらかという先生に意識してもらうため。</p>

ワークシート (別紙)

資料3 ワークシート

ビデオレタープロジェクト
～ネパールの小学校とのビデオレター交換を通して只見愛を深めよう～
年 名前 ()



II. ネパールについて

	全国	只見町
総数	3,410,992	59
中国	821,838	1
ベトナム	565,026	13
韓国	410,156	0
フィリピン	322,046	3
ブラジル	211,840	1
ネパール	176,336	8
インドネシア	149,101	24
ミャンマー	86,546	0
台湾	64,663	1
米国	63,408	1
その他	540,032	7

日本に現在住んでいる外国人の数 (在留外国人数)
2023.12 2023.06

16

③今日の授業は楽しかったですか。

1 楽しかった 2 少し楽しかった 3 あまり楽しくなかった 4 楽しくなかった

④どうしてそう思うのか、教えてください。

⑤今日の授業の内容は理解できましたか。

a. iPadの使い方

1 理解できた 2 少し理解できた 3 あまり理解できなかった 4 理解できなかった

b. 英会話

1 理解できた 2 少し理解できた 3 あまり理解できなかった 4 理解できなかった

⑥ネパールについて、もっと知りたい、調べたいと思ったことはありますか。

⑦只見町や朝日小学校について、もっと知りたい、調べたいと思ったことはありますか。

⑧今日の活動について、気づいたことや気になったこと、大学の先生への質問などを自由に書いてください。

18

私の視点
ジギヤンクマル・タバ
かながわ国際交流財団職員

「ネパールには学校が何校あるのか。⇒約 校 (2022年) ②ネパールにも中学校があるのか。」

急増する在日ネパール人 地域の一員 互いに理解を

本校で過ごし、留学期間の生活に本でのアルバイトを前もって介し、人手不足を補っている。...

①これからの活動について、今、どんな気持ちを持っているか、書きましょう。

②これまでに只見町について、どんなことを学んできましたか。

17

●10月22日

II. プロジェクトの全体像

II. ふり返り 「ネパールについてもっと知りたいこと」(7/16)

1) 学校のこと
★長岡先生に教えてもらおう

①ネパールには学校が何校あるのか。⇒ 約 校 (2022年)

②ネパールにも中学校があるのか。

日本の学校			ネパールの学校		
名前	学年	年齢	名前	学年	年齢
小学校			Primary	1-5	6-11
中学校			Middle	6-8	12-14
高校			Secondary	9-10	15-16
			Secondary	11-12	17-18

ネパールの学校は、学年末試験に合格しないと進級することができず、リゅう年することになる。そのため、教室には同じ学年の生徒だけでなく、ちがう年れの生徒が一緒に学ぶことになる。(ふく成級)

③学校の歴史
1951年から学校教育がせいでと始まり。それまでは、国王の関係者など、ごく少数の人たちしか学校で勉強することができませんでした。(当時の国民のしきりつは約2%)

④ネパールの学校の中を見たい。
⑤ネパールの学校ではどんな授業があるのか?
⑥玄閣(再こう)はどこにありますか。
⑦宿題はありますか、どのくらいですか。

19

2) 暮らしのこと

- ①どんな産業がありますか。
- ②町に、お店はあるのかな、コンビニはありますか？
- ③ネパールの常識を知りたい。

3) 衣服のこと

- ①どんな服を着ていますか。
- ②学校に行くときはどういふ服を着ていますか。
- ③伝統的な服はどんな服ですか。

4) 食べ物のこと

- ①どんなものを食べていますか。
- ②好きな食べ物はなに？
- ③学校に給食はありますか。

5) ネパールについて

- ①どんな動物がいますか。
- ②町にはどんな伝統や歴史がありますか。
- ③ネパールは何が有名ですか。

6) ネパールの言葉

- ①ネパール語を教えてください。
 - ②ナマステってどういう意味ですか。
- ⇒「こんにちは」という意味です。みんなで練習してみましょう。(長岡先生)

③英語は通じますか。なぜ英語が通じるのですか？ ★ひとみ先生に教えてもらおう

20

Ⅲ. ビデオレターを作ろう

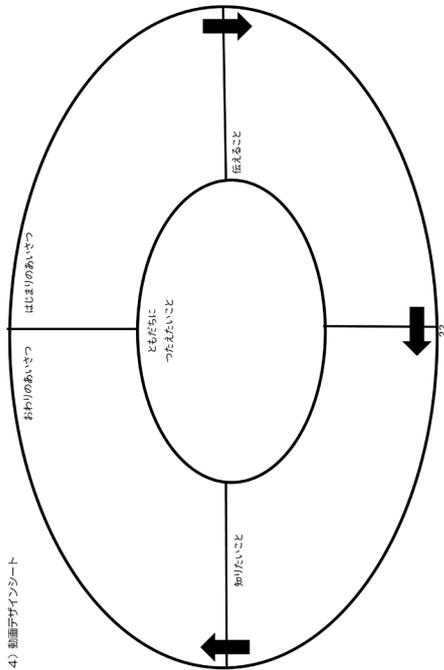
①学校の こと	②暮らしの こと	③衣服の こと	④食べ物の こと	⑤ネパール について	⑥ネパール の言葉
------------	-------------	------------	-------------	---------------	--------------

- 1) あなたが関心を持ったのはどの質問ですか。①～⑥までの番号で書いてください。
また、その理由を書きましょう。

- 2) 一組のグループの友だちの名前を書いてください。

- 3) iPadで動画をとるときに大事なこと（ふり返り）

21



4) 動画デザインシート

☆☆☆ネパールの友だちに向けて、
英語で自己紹介をしてみよう☆☆☆

1. Hello! Namaste!
2. I'm _____.
3. I like _____.

[calligraphy / music / baseball /

comic books / rabbits / dogs]

4. Nice to meet you!

23

アンケート

①今日の授業は楽しかったですか。

- 1 楽しかった 2 少し楽しかった 3 あまり楽しくなかった 4 楽しくなかった

②どうしてそう思うのか、教えてください。

③今日の授業の内容はどうでしたか。

a. ネハールの学校のこと b. 動画デザインシートの使い方

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 理解できた | 1 理解できた |
| 2 少し理解できた | 2 少し理解できた |
| 3 あまり理解できなかった | 3 あまり理解できなかった |
| 4 理解できなかった | 4 理解できなかった |

c. なぜネハールで英語を使うのか d. 英語であいさつ

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 理解できた | 1 できた |
| 2 少し理解できた | 2 少しできた |
| 3 あまり理解できなかった | 3 あまりできなかった |
| 4 理解できなかった | 4 できなかった |

④あなたのグループのビデオレターはどんな内容ですか。今日、決めたことを教えてください。

⑤今日の活動について、気づいたことや気になったことを自由に書いてください。